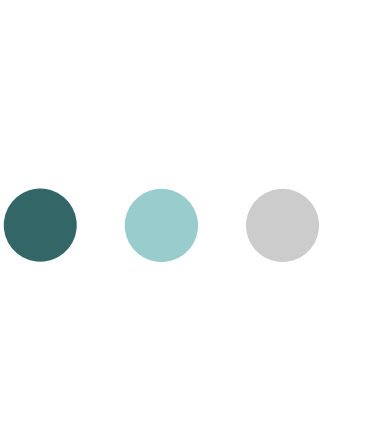
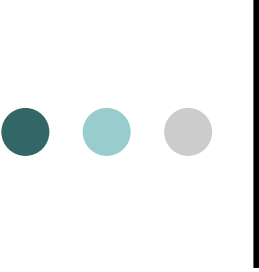


資料5



食品安全委員会における 緊急時対応訓練について(案)

平成19年3月12日(月)
食品安全委員会事務局



目的

食中毒等による緊急事態等における体制の実効性を確認するとともに、各担当者の意識の高揚、知識の向上等を図る。

「食品安全委員会食中毒等緊急時対応実施指針(平成17年4月21日食品安全委員会決定)」より)

● ● ● | 訓練の企画立案について

目的に応じた、効果的な訓練を行うために、訓練の企画立案時には、以下の事項に留意し、計画を立てる。

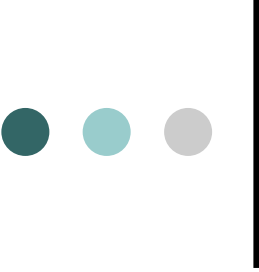
「訓練目的」と「訓練対象」を明確にする

目的に応じて、適切な訓練形式を選択し、複数の訓練を組み合わせて実施する。

食品安全委員会における緊急時対応においては、リスク管理機関等との緊密な連携が重要であることを考慮する。

その他、以下の視点を考慮する。

- **対象組織による視点**
 - 関係省庁 / 地方自治体 / 関係機関 等
- **対応フェーズによる視点**
 - 警戒段階 / 初動段階 / 対策段階 / 回復段階
- **活動項目による視点**
 - 初期情報連絡 / 対策本部の立ち上げ / 対策本部の運営 / 情報収集・整理・判断 / 対策実施 / プレス対応 等
- **緊急時対応における要求機能による視点**
 - ハードウェア / ソフトウェア / ヒューマンウェア / コマンドウェア
- **能力開発目標による視点**
 - 事象検知・判断力 / 参集能力 / 初動体制の確立能力 / 情報収集・整理能力 / 課題抽出・把握能力 / 対策立案能力 / 情報伝達・協調連携能力 / 状況創出・認識共有能力 / 知識・理解・意識啓発 / 基本動作・機器取扱い能力



訓練評価について

訓練の評価は、訓練が目的に沿って行われ、その目標に到達しているかどうかを評価することであり、「訓練対象(訓練を実施している組織や設備等)に対する評価」と「訓練の在り方(実施方法等)に対する評価」という2つの方向性がある。

訓練の評価においては、以下の事項に留意し、実施する。

評価方法のそれぞれに短所と長所があるため、訓練評価を実施する際には、目的に応じて適切な評価方法を選定する必要がある。

場合によっては、複数の評価方法を組み合わせて採用することが有効である。

● ● ● | 今後の緊急時対応訓練について(案)

平成18年度緊急時対応訓練の課題を踏まえ、次年度以降の訓練については以下の3点に重点を置いた訓練を行うこととする。

(1) 委員会内の認識の共有を図る

様々な様式と設定の訓練(机上シミュレーション)を実施し、疑似体験を重ねる。

(2) 緊急時対応マニュアルの実効性を高める

机上シミュレーションと同様の設定の実動訓練を実施することにより、緊急時対応の確認及び緊急時対応マニュアルの検証等を行う。

(3) 効果的な広報技術を習得する

広報に関する講習やメディアトレーニングを実施する。

(表1 訓練形式について)

(参考)

訓練形式	特 徴
研修会	・座学を中心として、基礎的知識及び専門知識の習得を図る。 ・組織が抱える未解決の課題等についても議論を深める。
机上 シミュレーション	・実際に体を動かすものではなく、イメージ力や判断能力の向上を目的とする場合に適した訓練。 ・空間的・時間的制約がないため、例えば災害の長期化に関する課題の抽出等、実際の訓練では実施が困難な事項の検討にも適している。
シナリオ 提示型訓練	・対応手順や連携の確認に主眼をおくため、事前に訓練シナリオを提示する訓練。 ・実践的な対応力の向上には向かない。
シナリオ 非提示型訓練	・訓練シナリオを事前に提示しない形式の訓練。 ・完全な抜き打ち訓練ではないが、訓練参加者(プレーヤー)は訓練中にコントローラーから付与される情報(状況)に基づき自ら判断し行動する。 ・実践的な対応力を検証するのに適している。
抜き打ち訓練	・訓練開始のタイミングでさえも事前に参加者に伝えない訓練。シナリオ非提示型訓練よりもより現実に近い状況設定となる。 ・訓練による混乱防止の観点から、対象範囲は限定される。

(表2 訓練の目的と訓練形式)

訓練目的		訓練形式
理解 習熟	専門知識を習得する。	研修会 シナリオ提示型訓練
	機器や設備の取扱いに習熟する。	研修会 シナリオ提示型訓練
動作確認 連携手順 の確認	通信連絡機器に関する動作確認を行う。	シナリオ提示型訓練
	関係者が共通理解を得る。	研修会 シナリオ提示型訓練
	定められた対応を迅速かつ確実に実施する。	シナリオ提示型訓練
	対応の連携手順を確認する。	シナリオ提示型訓練
実践的な 対応力 の向上	対応力や判断能力を向上させる。	シナリオ非提示型訓練 机上シミュレーション
	体制や計画の実効性を検証する。	シナリオ非提示型訓練 机上シミュレーション
	実際の緊急時の現場に近い環境で対応を経験する。	抜き打ち訓練

(表3 訓練規模と特徴)

訓練規模	特 徴
要素訓練	・ 訓練対象となる緊急時対応の要素ごとに検証する → 単独で実施、あるいは他の訓練項目に影響を与えないため、実効性・実践性の高い訓練形式を選択可能 → 他の訓練項目と共通の時間軸にのらない訓練項目の場合に適用
総合訓練	・ 複数の訓練項目を併せて実施して全体の連携を確認する → 全体フレームを動かすため防災体制の理解増進につながる → 要素訓練の成果を確認する → 多くの場合シナリオ提示型訓練を基本とする。ただし一部にシナリオ非提示型訓練を組み合わせることは可能

(表4 訓練評価手法について)

評価手法	長所	短所
評価 チェックシート	・ 複数の専門家による視点からチェック項目を作成することにより、系統的なチェックが可能である。 ・ シナリオ非提示型訓練の場合は、緊急時活動に関する系統的評価を行う意義が高い。 ・ 次回訓練にも活用できる。	・ 複数の専門家の意見を反映し、複数の視点からのチェック項目を準備する必要がある。 ・ 所見のような記述部分は評価者の主観に依存する。 ・ 観察できる情報のみに基づいた評価となる。
アンケート	・ 訓練参加者自身が気づいた課題、問題点が抽出可能である。 ・ 訓練実施による参加者の習熟・理解の向上の度合いについて知ることが可能である。 ・ 関係者から意見を広く収集することが可能である。 ・ 次回の訓練にも活用できる。	・ 詳細な意見聴取は難しい。 ・ 抽出したい事項を念頭に置き、アンケートシートの設計を慎重に行うことが必要。
アフター・ アクション・ レビュー (直後反省会)	・ 異なる立場から訓練に関与した人が一堂に会することができ、問題の本質を議論することができる。 ・ シナリオ非提示型の場合に実施意義が高い。	・ 訓練に参加した主要なメンバーを集める必要があるため、日程の調整が必要である。 ・ レビュー進行者にはある程度のスキルが必要である。
訓練 評価会議 (総括会議)	・ 訓練の検証を目的とした会議であり、第三者的な視点から訓練の総括的な評価を行い、その評価結果をもとに今後の訓練のあり方や現状の体制や計画の課題を抽出することができる。 ・ PDCAサイクル()のCheck(訓練評価)とAction(訓練による改善)をつなぐ役割をもつ。	・ Action(訓練による改善)をしっかりと意識して会議を進める必要がある。 ・ 会議は訓練からしばらく時間をおいて実施される場合が多く、また、訓練を直接目にしていない評価者も会議に参加し、総括的な評価を実施するために、検討用の資料を準備する必要がある。
専門家 レビュー	・ 各分野の専門的な視点からの分析が可能である。 ・ 専門家の経験を活用できる。	・ 事前に十分な情報を与えておかないと主観的な評価になりやすい。

PDCAサイクル:PDCAサイクルとは、マネジメント活動の基本的な考え方。訓練の企画立案・実施に関するPDCAサイクルとは、「訓練目的を設定し、訓練計画を策定する(Plan)」、「訓練を実施する(Do)」、「訓練を評価し課題を抽出する(Check)」、「体制や計画の改善を行う(Action)」というプロセスを継続的に繰り返し、対応力をスパイラルアップさせていくことを意味する。